

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

研究抄録(2022.)令和 年度:

,

がん看護ジェネラリスト育成研修プログラムの取り組み —調査結果からの分析—

○尾崎靖子¹⁾ 笹田豊枝¹⁾ 大居朋世¹⁾ 眞鍋真実²⁾ 國本紅美子³⁾
植山さゆり⁴⁾ 黒崎明子⁴⁾ 原口眞紀子⁴⁾

1) 腫瘍センター・外来化学療法センター・緩和ケア診療部ナースステーション
2) 5階西ナースステーション 3) 6階東ナースステーション 4) 看護部

1. 実践の背景・目的

A病院では、がん看護の専門的知識と技術を4年間教育する「がん看護ジェネラリスト育成研修プログラム（以下プログラム）」を開発し、修了者を「がん看護ジェネラリスト（以下ジェネラリスト）」と認定している。開始5年後研修効果を評価し、アセスメントの広がりや看護への自信をもたらしたが、学びの活用や実践の変化の検証が課題となった。そこで、経過を振り返り、内容の検討やジェネラリストの活動支援の示唆を得る。

2. 実践内容

2016年度、ジェネラリストとその所属部署や関連部署の看護師長を対象に、部署での活動や役割の現状を調査した。調査を受けて、ジェネラリストの活動を定義した。2017年度には、プログラム内に実践報告会を設け、がん看護ジェネラリスト会も開始した。がん化学療法特化のプログラムから放射線療法や緩和ケアの内容を加え、がん看護を包括し見直した。

3. 倫理的配慮

A大学倫理委員会の承認を得た。利益相反はない。学会発表に関する承認も得た。

4. 実践結果

アンケートの結果、ジェネラリストは研修が看護・自己の成長・キャリア開発に役立つと評価し、習得した知識や技術を活用し、後輩指導や部署の役割実践に活かしていた。看護師長への聴き取り調査では、【活動や役割の変化】【役割期待】【研修受講のメリット】に加え、【経験豊富なスタッフからのニーズ】が抽出された。

3年間の実践報告会では51例、ジェネラリスト会では3例の実践報告を集積した。

5. 考察

ジェネラリストは経験年数に期待される実践・教育を行っていた。管理者はリーダーシップ発揮の期待があるが、経験年数から変革は困難であった。経験6年目以上のジェネラリストに、ケアの実践モデルの役割を期待し、実践報告の機会を設けてきた。継続して実践報告を集積し、実臨床での支援を検討する。また、知識と実践の統合や変革の促進力となる経験豊富なスタッフとの協働も重要である。